



日本薬学会 医薬化学部会 創薬人育成事業

東海地区 10 大学連携

# 創薬人育成スクール

PSJ 日本薬学会  
The Pharmaceutical Society of Japan

医薬化学部会  
Division of Medicinal Chemistry  
The Pharmaceutical Society of Japan



ナガイ博士

## アドバンストコース

主として大学院生対象。学部高学年生も可。参加費無料

日時：令和8年10月10日（土）13時00分～17時50分

場所：岐阜大学 柳戸キャンパス 工学部 100 番教室

開催世話人：岐阜大学工学部化学・生命工学科 池田 将



参加登録  
(※切:10月2日)

## プログラム

13:00 開会の言葉 岐阜大学工学部（岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科 兼任） 池田 将

13:05～14:25 インフルエンザをはじめとするウイルス感染症治療薬の創製

座長：平山 祐 塩野義製薬株式会社 創薬疾患研究所 宍戸 貴雄 先生

岐阜薬科大学

インフルエンザウイルスやコロナウイルスは呼吸器感染症の病原体であり、今後もパンデミックを引き起こす可能性があることから、依然として世界的な公衆衛生上の課題である。我々はこれまで、バロキサビル マルボキシルやエンシトレルビルといった治療薬を創製し、グローバルに開発してきた。本セミナーでは、その研究開発経緯、臨床成績、将来の創薬展望を紹介する。

14:25～15:45 製薬企業におけるプロセス研究

座長：滝田 良 住友ファーマ株式会社 R&D 本部 プロセス研究ユニット 平野 沙悠梨 先生

静岡県立大学

プロセス化学は、医薬品の有効成分である原薬をいかに製造するかを探究する学問であり、メディシナルケミストリーで生まれた化学の種を、安定的かつ安全・低コストに製品へと仕上げる“ものづくり”の核心を担います。本講演では、プロセス化学の基礎的な概要から実際の研究事例までを紹介し、その魅力と重要性に触れていただくことを目的とします。

15:55～17:15 武田薬品における創薬研究紹介

座長：中川秀彦 武田薬品工業（株） リサーチ グローバルケミストリー 湯川 猛史 先生

名古屋市立大学

本発表では、武田薬品における創薬研究活動の具体的な事例として、精神疾患治療薬を指向した GluN2A PAM の創薬研究について詳述する。あわせて、その研究過程で開発した新規フッ素化反応についても紹介する。さらに、研究所が入居する 湘南ヘルスイノベーションパークのエコシステムや、米国アカデミアとの共同研究事例についても取り上げ、創薬研究における他企業や外部研究機関との連携の重要性 について指摘させていただく。

17:15 閉会の言葉 名古屋大学 横島 聡

17:20 学生と講師の交流会

日本薬学会 医薬化学部会 創薬人育成事業 東海地区世話人

横島 聡（地域世話人代表、名古屋大学）、滝田 良（静岡県立大学）、中川秀彦（名古屋市立大学）、柴田哲男（名古屋工業大学）、原 脩（名城大学）、安池修之（愛知学院大学）、林 一彦（金城学院大学）、北出幸夫（愛知工業大学）、平山 祐（岐阜薬科大学）、池田 将（岐阜大学）、萬代大樹（岐阜医療科学大学）、岩島 誠（鈴鹿医療科学大学）